

13. 筋骨格系・結合組織の疾患

文献

中嶋美和、井上基浩、糸井恵、ほか。ランダム化比較試験による頸肩部痛に対する鍼治療と局所注射の検討 全日本鍼灸学会雑誌 2007; 57(4): 491-500. 医中誌 Web ID: 2008024979

中島ら。ランダム化比較試験による頸肩部痛に対する鍼治療と局所注射の検討。医道の日本 2008; 67(10): 116-125. JA0817, 医中誌 Web ID: 2008373095

中島ら。ランダム化比較試験による頸肩部痛に対する鍼治療と局所注射の比較。日本生体電気・物理刺激研究会誌 2008; 22: 1-6. JA0818, 医中誌 Web ID: 2009099691

1. 目的

頸肩部痛に対する鍼治療と局所注射の効果の比較

2. 研究デザイン

ランダム化比較試験 (RCT)

3. セッティング

明治鍼灸大学付属病院整形外科、京都、日本

4. 参加者

当該整形外科外来患者 33 名

5. 介入

Arm 1: 鍼治療群 (16 名)。ステンレス鍼 (0.18×40mm、セイリン社製)。10-20mm の深さで得気後雀啄術 (1Hz、20 秒)。

Arm 2: 局所治療群 (17 名)。25G 注射針 (0.5×25mm、TERUMO 社製) を用い、塩酸ジブカイン配合剤とノイロトロピン®を注入し抜針。両群とも最大自覚痛 3-5 カ所、週 1 回、計 4 回治療。

6. 主なアウトカム評価項目

VAS (痛み評価) および 6 段階評価の Neck Disability Index (NDI) 日本語版。いずれも治療前、終了時、終了後 2、4 週間目にマスキングされた評価者が評価。

7. 主な結果

VAS、NDI 共に Arm2 に比べ、Arm1 で有意に改善した。

8. 結論

頸肩部痛に対して鍼治療は局所注射より有用である。

9. 鍼灸学的考察

自覚的最大の痛部位を治療点にしている。

10. 論文中的安全性評価

記載なし。

11. Abstractor のコメント

本研究は鍼治療家にとっては西洋医学的治療との効果比較という点で大変興味深く、この興味に関してランダム化比較試験を試みた点は高く評価できる。但しリサーチ・クエスチョンが不明瞭なため、目的と結論の整合性に不備がある。RCT の質の点から見ると、サンプルサイズの事前見積もり、ランダム割付やマスクの成功についての内的妥当性評価、適切な統計解析処理が行われていないなど不備がある。群内比較と必要な群間比較が同時になされているため、読者に誤った結果を印象付ける可能性がある。従って、本研究の結論はあくまで限定的に捉えるのが妥当と考えられる。本研究目的は鍼灸臨床において重要な事項であるので、前述の点を改善し、事前の試験計画を十分に練ったうえで再試験をおこない、よい公共財を残して頂きたい。

12. Abstractor

七堂利幸 2010.11.5